

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

本校には 1200 名を超える児童が本校(4 学年)、分校(2 学年)に分かれて在籍している。大阪市でも有数の大規模校であるにもかかわらず、運動場は中規模校と同程度の広さしかなく、教室内も学年ごとの定員いっぱいの児童が教室での活動を余儀なくされている状況である。校内の児童人口密度が高いことに加え、校舎間の移動、校舎から講堂への移動にあたっては、一般道路を横断せざるを得ない構造になっており、学校環境の側面から考えたとき、児童の精神的ストレス度合は他の小学校児童と比べて高いといえる。そのことの弊害として、ケガや、児童間のいざこざをはじめとする生活指導上の問題発生が比較的多い状況がある。この解消にあたっては、単に「規則遵守の指導の徹底」だけでは不十分であり、児童の規範意識の醸成に向け、道徳的な判断力等の育成、自他を尊重する態度の形成、危機回避意識の育成を図ることが重要と考える。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

本校の児童は、教職員の熱心な授業研究により、学習に対して意欲的に取り組むことができており、学力については全国学力学習状況調査(国語、算数)においては全国平均を、大阪市の学力経年調査(国語、社会、算数、理科)においては大阪市平均を上回る成績を残してきている。しかし、学年によっては、また、教科によっては、大きく大阪市平均を上回るものもあるが、僅差で上回っているものもある。児童の学力向上にあたっては、教員の研究研修は欠かすことはできないものであり、とりわけ、児童の実態(理解度、関心度等)を踏まえ、児童が意欲的に取組み、「わかる・できる」授業を提供していくかなければならないと考える。そのためには、学習指導要領の改訂内容をふまえ、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」をテーマにした全学年による算数の研究をはじめ、指導の充実や授業力の向上および初任者若年者育成等、授業研究を軸とした校内研修を充実させていく必要性がある。また、授業内容に応じて、ICT 機器を活用し、児童一人一人の能力や特性に応じた指導を充実させ、授業の質を向上させていく必要性もあると考えている。

体力の向上にあたっては、この 4 年間(平成 25 年度～28 年度)に「パワーアップタイム」の創設、体育授業における運動量の確保等、全校を挙げての取組みを行ってきた結果、前述したように一人当たりの運動できる場所は他校と比べて圧倒的に少なく、地域にも運動できる場所もないにもかかわらず、「全国体力・運動能力、運動習慣調査」における全国平均得点、大阪市平均得点との差は大いに縮小してきた。今後も体育的活動の工夫、体育授業の改善をさらにはかっていくことにより、体力の向上を図っていく。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- あらゆる教育活動を通して、「いじめ」事象の未然防止に努めるとともに、発生したいじめ事象については、全教職員が一丸となって解決に取り組み、その解決への取組みを100%にするとともに、各年度の解消率を95%以上にする。
- 4年間「学校のきまりを守る」取組みを継続して行うことで、平成32年度の「学校のきまり・規則を守っていますか」という項目の肯定的反応の比率を90%以上にする。
- 暴力行為についてはいかなる場合でもゆるされないことを徹底指導し、平成32年度の校内における暴力行為を平成28年度の件数の4分の1以下にする。
- 平成28年度の不登校割合を平成32年度には半減させる。
- あらゆる機会を通して、自分のよさや友達のよさについて考えさせる取組みを通して、平成32年度には「自分には何かよいところがありますか」という項目に対してはつきりと「いいえ」と回答する割合を3%以下とする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- わかりやすい授業をめざして授業展開の工夫等に取り組み、平成32年度までの学力経年調査における標準化得点をすべての対象学年（3年生以上）のすべての教科において、大阪市の平均を3ポイント以上上回る。
- 体育授業、体育的活動、遊び時間の工夫を行うことにより、平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査の体力合計得点を大阪市平均を男女ともに上回るようにする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- ・平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を 88%以上にする。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- ・平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- ・平成 29 年度の児童用学校アンケートにおける「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を 4%以下にする。

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- ・平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）
- ・平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 7.4 割以下の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- ・平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 7.5 割以上の児童を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- ・平成 29 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。
- ・平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- ・本年度の学校の児童アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について肯定的回答の割合を全体の 90 %以上にするとともに、「はい」の割合を全体の 60 %以上にする。
- ・平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平均の記録を全国の平均の記録よりも 1 種目以上上回る。

(様式 2)

大阪市立常盤小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">平成 29 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。平成 29 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 88% 以上にする。平成 29 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。平成 29 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。	
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">平成 29 年度の児童用学校アンケートにおける「自分にはよいところがありますか」の項目について、「いいえ」と答えた児童の割合を 4% 以下にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策番号 2 道徳教育の推進】</p> <p>「人間としてのあり方や生き方を考えることができる」道徳科の授業を工夫し、児童の道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に努める。</p>	
<p>指標 年間 35 時間以上の授業時数を確保する。</p>	
<p>取組内容②【施策番号 2 人権を尊重する教育の推進】</p> <p>人権尊重の教育をふまえ、自尊感情を高め、自他の違いを認め合える関係を築けるような児童の育成に努める</p>	
<p>指標 人権教育実践（研修・授業）を通して、自分のよさに気づき、児童用学校アンケートにおける「友だちのよいところを見つけられましたか。」について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた児童の割合を 90% 以上にする。</p>	
<p>取組内容③【施策番号 1 防災・減災教育の推進】</p> <p>災害発生時に、自ら危険を回避しようと主体的に行動する態度を育成するために、防犯・防災指導や避難訓練・引き渡し訓練を実施する。</p>	
<p>指標 学期一回以上の防犯・防災指導及び避難訓練を実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
全市共通目標について	

学校の年度目標について

取組内容①について

取組内容②について

取組内容③について

次年度への改善点

(様式 2)

大阪市立常盤小学校 平成 29 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none">平成29年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。（標準化得点とは、各年度の調査の本市の平均正答数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと）平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 7.4 割以下の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。平成 29 年度の小学校学力経年調査における正答率 7.5 割以上の児童（生徒）を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。平成 29 年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">本年度の学校の児童アンケートの「学校の勉強はわかりますか」の項目について肯定的回答の割合を全体の 90 %以上にするとともに、「はい」の割合を全体の 60 %以上にする。平成 29 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平均の記録を全国の平均の記録よりも 1 種目以上上回る。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【施策番号 5、子ども一人一人の状況に応じた学力向上への取組 「主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）」をテーマにした全学年による算数の研究をはじめ、指導の充実や授業力の向上および初任者若年者育成等、授業研究を軸とした校内研修を充実させる。】 指標 一人 1 回以上の授業公開をめざし全教員が授業力向上の手ごたえを感じられるようにする。	
取組内容②【施策番号 6、国際社会において生き抜く力の育成】 ICT 機器を活用し、児童一人一人の能力や特性に応じた指導を充実させ、授業の質を向上させる。 指標 ICT 環境の整備と ICT 機器を活用する力を高めるための校内研修を実施する。	

取組内容③【施策番号 7、健康や体力を保持増進する力の育成】

体育科の学習の充実を図り、外遊びの声掛けを行ったり、冬場には縄跳び週間や駆け足週間を設定したりすることで、体力向上の意識を高める。

指標 年間指導計画に沿って運動する時間を確保し実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

全市共通目標について

学校の年度目標について

取組内容①について

取組内容②について

取組内容③について

次年度への改善点